

広報

こだま

2016

Vol.23

【栗田病院 広報誌】

新年のご挨拶

理事長 栗田 裕文・院長 安部 秀三

広報散歩

精神科急性期治療病棟「サクラ病棟」

フォーカス くりた人

臨床心理室 臨床心理士 丸山明日香

創立48周年記念事業



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

理事長・院長より新年のご挨拶

理事長よりご挨拶

新年明けましておめでとうございます。理事長の栗田裕文です。こうして今年も新年のご挨拶が出来ますこと、大変うれしく思います。

お陰さまで、医療法人有朋会は昨年元氣一杯に活動して参りました。もちろん、まったく平坦な道のりはないように、365日を振り返ってみれば、色々なことがございました。だからこそ、大変、実り多い1年だと感じます。これもひとえに、患者様やご家族様、連携をいただいております諸機関をはじめとした地域の皆さま、そして有朋会職員の皆さん等々、たくさんの方々に支えていただき、応援をいただいておりますお陰と実感しております。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

現在、そしてこれからの社会を取り巻く状況の中で、「こころ」をキーワードとした取り組みが、より大切になってきております。新しい年も、より良い「こころ」のケアやサービスを提供できますよう、一つひとつ改善を積み重ねて参ります(そうなりますよう精一杯務めます)。



院長よりご挨拶

新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎え皆様方も清々しい新年を迎えられたことと、お喜び申し上げます。院長としてより一層気持ちを引き締めて運営していく所存です。本年もよりしくお願いいたします。

当法人はこの地域において①精神科急性期医療、②認知症医療・介護、③療養病棟からの退院支援による法人施設等への地域処遇、という3つのケアシステムの充実を図りつつ運営しております。昨年はこの前提となる医療安全、労働安全について整備し、法人としてOHSAS(労働安全衛生マネジメントシステム)の認証を受けました。また治療の質向上を目指し、急性期治療病棟ではクリニカルパスを導入し、さらに療養病棟においては統合失調症の治療抵抗性状態に対する新たな治療薬(クロザピン)を導入し、

そしてもちろん、私たちが理念に掲げている、その求める姿を目指しての歩みの中、これからも様々なことが(嬉しいことが沢山、そうでないものももしかすると)起こると思います。ここで大切なのは(私たちが常に心に留めておくべきは、例えどんな状況であろうとも、雨が降ろうが風が吹こうが、私たちが目指す先、進むべきゴール(理念)には何も変わりがないのだ、ということではないでしょうか。ゴールを目指してしっかりと歩みを続けて、様々な経験を通して学び成長しながら、堂々と自分たちの医療・介護を行っていく所存です。

今年も皆様と手を携えながら、共に歩んでいきます。ご指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。どうか皆様にとっても、素晴らしい1年となりますように。

今年もよろしくお願い申し上げます。

(理事長 栗田 裕文)



期待を上回る治療成果が出ております。認知症部門は認知症疾患医療センターとして地域の啓発活動や連携活動に取り組み、県内では最も認知症の新患者数の多い医療機関として新聞調査が公表されました。

一方で医療介護をめぐる社会情勢をみますと、今後さらに高齢化は進展し、医療・介護財源が先細る状況にあります。今年は診療報酬の改定が予定されていますが、入院部門はより高度で安全な医療を求められます。また、外来・介護部門では地域ケアシステム構築が急がれるなかで我々のサービスが地域のサービスとして地域に理解され、不可欠なサービスとして認知されるかどうかということが重要となってきます。これまでのサービスの継続だけでは当地域のニーズとのずれが生じてくるでしょう。職員各々の日々の自己研鑽や地域の方々との連携・対話に努めつつ、これまで以上に柔軟な発想のもとさまざまなニーズに対応できる医療介護機関を目指し取り組んでいきます。

本年も地域から信頼されるより良い法人を目指して、職員とともに取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(院長 安部 秀三)

広報散歩

『精神科急性期治療病棟』『サクラ病棟』 —入院治療の最前線—

急性期症状の鎮静を最優先に早期治療・早期退院に向けた集中治療を提供するサクラ病棟。今回は、入院治療の最前線で働く看護師のお二人に話を伺いました。

スタッフの紹介

加藤 サクラ病棟に勤務しているスタッフは、看護師・准看護師・看護助手・精神保健福祉士・病棟クラークの計31名で、その他にも担当として作業療法士が毎日病棟で勤務しています。明るい性格のスタッフが多く部署内のコミュニケーションも活発です。常に変化を求められる病棟ですが、皆さん積極的で頼りがいのあるスタッフばかりなので安心して任せられます。



病棟の役割

河井 サクラ病棟は満48床の精神科急性期治療病棟です。入院されている患者様の疾患は5割が統合失調症関連の方、3割が気分障害の方、残りの2割がパーソナリティ障害や認知症等の方です。年齢層は平均すると現在は50歳くらいですが、10代から90代まで幅広い年齢の方が入院されています。

加藤 当院へ新規で入院される患者様の大半をこのサクラ病棟で受けており、毎月30名以上の方が入院されています。早期治療、早期退院という事で3ヶ月以内の退院を目標としていますので、病棟だけではなく、外来部門や社会復帰部門など多部署との連携を密に取り治療の提供を行う必要があります。

病棟の役割としては、まず急性期症状が活発な患者様

チーム連携を意識

加藤 精神科医療に不可欠なのがチーム連携です。私たちサクラ病棟も多部署との連携を重視しています。具体的には、毎朝各職種が集まって申し送りが行われたり、毎週1回開かれる主治医毎のDRカンファレンスで、医師と看護師の他に作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士等の情報共有が行われています。こういった連携を図る事で、治療についての疑問点を確認でき、提供できるサービスの質向上に繋がっているものと思います。

河井 精神科医療を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。患者様の層やニーズも大きく変化しており、これに対応していくためにも様々な職種が幅広い視点で患者様一人ひとりと向き合える環境が求められています。個々人がコミュニケーションを密に取り、一人が受けた情報を次に繋げる、その繰り返しで治療に活かされるものだと感じています。



病棟主任 加藤由果子 病棟師長 河井達哉

患者様との関わりで大切な事

河井 まずなにより大切なのが患者様の気持ちに配慮した治療の提供です。病院であれば当然と思うかもしれませんが、我々のようなこころの専門医療機関は特に重要であると考えています。患者様の治療の経過に伴いその時期に合わせた慎重な関わりが必要なのです。

患者様の中には病識の欠如から治療に拒否的な方もいます。まず「話を聴く」、そして「想いを受け止める」この2つが大事ですね。

加藤 患者様への関わりがうまくいくとやりがいにつながります。自分達の想いが伝わり、患者様に笑顔やお礼の言葉をいただくことや嬉しそうです。これは医療従事者であれば誰もが納得するのではないのでしょうか。ナースステーションでもよく「今日こんな事があった」、「患者様に笑ってもらえた。」という話で盛り上がりしています。

現在力を入れている取り組み、今後のサクラ病棟

加藤 クリニカルパス※の運用に力を入れています。チーム連携にも関係してきますが、パスをベースに記録を残すので職種毎のアプローチが視やしくなり、共通認識が生まれました。患者様の状態や次に何をすべきか分かりやすくなったので、切れ目のない治療を可能とし、患者様との関わりも深いものとなりました。看護計画の評価も遅れなく行えるようになった事も効果の一つです。

河井 まずは質の向上ですね。場面に応じた確な対応を求められるのでスタッフの知識や技術は磨き続けたいです。あとは今よりもっと働きやすい環境作りを目指していきたいです。お互いを尊重し認め合う風土を創り上げ、スタッフが充実した環境で働く事で、それが患者様にも伝わり治療の質向上に繋がるとも思っています。

※クリニカルパス：提供する医療の標準化を目的としてパス表を用いて治療内容を最適化したもの。評価・改善を行う事で医療の質を向上させるシステム。標準入院治療計画書。

フォーカス くりた人



臨床心理室

臨床心理士 丸山明日香

当院で働く、現場職員の声をお伝えします。

部署での役割や活動、担当業務

まず外来通院や入院中の方を対象とした心理検査とカウンセリングです。心理検査にはいろいろと種類もありますが、その方に必要な検査を選び、結果を分析し所見を作成しています。カウンセリングは、その方の状況をふまえてある程度長い時間お話しを伺います。こちらからアドバイスをするというよりも、一緒に問題解決の道筋を探っていくプロセスになります。その他には、多職種でチームを構成し、様々な集団プログラムに参加しています。

学会に参加する事も大切な活動です。全国各地で開催される学会に参加すると、他施設の心理士の方の取り組みを知り、意見交換もできます。自分の知らない事を知れるのが大きく、とても刺激になります。

また、今年度は創立記念委員の委員長を務めました。これまで経験した事がない業務で、お招きした先生への対応、日程の調整、進行の段取り、各委員への作業分担指示など、イベントを開催する事の大変さを理解できました。普段関わる事の少ない部署の方とのつながりも出来ました。とても勉強になりました。

業務で意識している事、大変な事

いつも心掛けているところは、自分に何が必要か考えること、目の前にいる方がどんな体験をしているのか、その方自身の体験にはどんな意味があるのか、想いをめぐらせながら、その方の発する言葉に耳を傾けていくことです。心理士の仕事は「話す／聴く」作業を基本としています。しかし、言葉に表れる事もあれば、言葉に表現され

ない事もあります。患者様の発する言葉も大事ですが、言葉にならないところに本当の想いや辛さが込められている事もあると思います。両方に目を向けて、汲み取っている事が大切ですが、日々難しさを感じています。また、自分が分かったつもりにはならず聴くことも大切だと思います。これは常に意識しておきたい部分です。「こうだろう」と思い込み、自分に寄せた解釈をしてしまう、そうならないように自分の気持ちもしっかりと見つめておかないといけません。その方の体験として理解するには、「自分の気持ちはこうだけど、でもこの方はそうではないかもしれない」と絶えず意識しなければいけません。自分の気持ちに気付いていないと相手の事を理解する事は難しいと思います。

当法人でのやりがい

いろいろな方がいて、たくさんの方の体験ができる事です。学ぶ事もたくさんあり、それを自分の力として身につけて活かせる機会を頂いています。日々の業務が次に繋がっていくという経験がやりがいにつながっています。

また、外来・病棟・デイケアなど、その方の状況に合わせてニーズに応じた支援ができる環境が整っていると思います。心理士だけではなく、多職種の方とチームとなつて患者様について考える事ができたり、それぞれの職種の視点を学べます。その時、自分の頭からだと出てこないような発想に出会う事もあります。

心理士を目指したキツカケ

まず大学に入って、心理学を学び始めました。そもそもの出発はそこです。「自分の心ってなんだろう。」「人の心ってなんだろう。」と興味がわき、心理学を学びはじめました。ただ、やればやる程「心」が分からない、複雑だと感じていきました。心理学という学問でいえば、こういう理論があつて、発達の中で人の心はこうやって成長していく、悩んだときやストレスがかかった時、人の心はこんな風に自分を守るために動いていく…などの知識は、人の心を理解するためのヒントにはなりませんが、実際には理論にあてはめられない事だらけでもあります。学べば学ぶほど「人の心を理解すること」のむずかしさを痛感するようになりました。もともとと知りたいた

創立48周年記念事業

有朋会では創立記念事業として記念式典と症例研究発表が行われています。

今年度は11月27日(金)に開催しました。

記念式典

式典では、日々の業務で活躍した部署やプロジェクトチームなどに対し、賞状や副賞が授与されます。

理事長賞：高品質、顧客満足度の高いサービスを設計・開発し提供した者に贈られる賞

〈受賞〉ヒマワリ病棟

「受賞理由」難治患者に対して、クロザピンを用いた新たな治療体制を構築・運用し、難治患者の回復の可能性を見出した。

〈代表〉佐藤浩

院長賞：日々の業務において、顧客ニーズに合わせた満足度の高いサービスを提供した者に贈られる賞

〈受賞〉サクラ病棟

「受賞理由」クリニカルパスを作成・運用し、治療の標準化を行い、円滑な患者支援が行われた。

〈代表〉河井達哉

QCサークル大賞：QCの手法を用い、より質の高い業務改善を行った者に贈られる賞

〈優勝〉「精神科急性期病棟における心理室業務の情報共有の仕組み作り」 臨床心理室

「代表」赤岩美希

〈準優勝〉「作業療法時の無断離院のリスクを減らすう！」 作業療法部

「代表」平塚美紀、舟木峻

症例研究発表

症例研究発表は医療・介護のサービス向上を目的とし、部署または個人単位で症例の研究を行い、そ

の成果を発表しています。



症例研究発表では講師として、茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 糸嶺一郎先生にお越しいただきました。



糸嶺先生には各発表のご講評をいただき、優秀賞の選出もお願いしました。

研究発表題目

発表者	題目
綿引 杏奈	患者満足度向上に向けた医事課の取り組み
辻 麻里子	PSWとしての家族支援を考える （家族調整に難航したケースを振り返って）
武田 美津江 小蘭江 直美	治療抵抗性統合失調症患者へのクロザリル治療による病状の変化（長期入院患者への取り組み）
森田 浩之	暴力リスクと暴力発生との関係
小橋 昌樹	認知症患者リハビリテーションでの個別音楽療法の導入（一人一人に合った音・音楽を届けるために）
寺門 邦茂	認知症高齢者に対するBPSDの軽減

考えたい、そういう気持ちがベースにあると思います。また、学生時代には心理士の仕事ってなんだろうと考えました。実習へ行ったり、心理士の先生の仕事を間近で見て、心理士の仕事は、「相手との関わりの中で、相手の事を知ろうとした時に、お互いの心のふれあいが生まれる。そのやりとりを通して、その人がその人らしく生きていくためにはどうしたらいいかを一緒に考え、手伝っていく仕事」だと思ふようになりました。相互の関係の中で相手を知ろうとしていくことがサポートに繋がっていく、というところに、この仕事の魅力を感じています。

これからの自分、今後の目標

心理士として入職した頃と比べると、いろいろな方との出会いで成長してきたところもあると思います。しかし、やればやるほど未熟さを痛感する事も多いです。定期的にお世話になっている先生に会ったり、勉強会に参加したり、ベテランの先輩方がいたり、そういった方々とお話をするたびに新たに学ぶ事も多く、学びと成長の繰り返しだと感じます。

これから自分がどんな心理士でいたいのかと考えると、その人が主体的に自分の人生を歩んでいくために、近すぎず、遠すぎず、ちょうどいい距離の中でその傍らに寄り添いながらサポートできるような心理士でありたいと思います。

患者様にお会いしていると、何気ない会話が続きたり、心の核心にせまるような話があったり、その方と自分との関係や、やりとりの中で変化していく事などがたくさんあります。その一つひとつへ丁寧に目を向けていくことを大事にしていきたいと思っています。

また、お話をうかがっていく中で、劇的な変化が起こるかという、そういうものでもありません。日々小さなところからコツコツと積み重ねていく作業が、心理士の仕事かなと思います。もどかしさを感じる時もありますし、実は患者様はもつと感じているかもしれない。そこには、言葉を通したやりとりの積み重ねしかないと思います。そして、徐々に変化が生まれて、一歩ずつすすんでいけるように、時には道案内役のようになりながら、そつと寄り添っていくことが求められているのだと思います。

小島 みすず	認知症を介護する男性介護者への支援のあり方
沼 里 砂	当院の精神科慢性期病棟における低体重患者への実態調査
森 一 起	訪問リハ計画書の改訂 部署内で活用出来る計画書作り
富田 麻 椰	視覚的方法を用いた強迫性障害を伴う精神遅滞の利用者への支援
丸山 明日香	グループカウンセリングにおける卒業生が語られることの意味―休止に至ったプロセスの分析を通して―
田中 香 梨	復職支援プログラムにおける発達障害特性を疑われたケースへの支援の一考察
磯前 里 香	就労支援プログラムの効果
〈QCサークル〉 舟 木 峻	作業療法時の無断離院のリスクを減らすう！

優秀賞

優秀な作品には講師糸嶺先生と当院理事長より優秀賞が贈られます。

今回は、沼里砂さん（栄養部）の「当院の精神科慢性期病棟における低体重患者への実態調査」が選ばれ、賞状と副賞が渡されました。



最後に

有朋会の創立記念事業は、講演会・式典・症例研究発表を通して、職員が日々の業務の振り返りや学びの機会を得る事のできる大事な行事となっています。「専門職として、人間として成長していく」、「有朋会のサービスをさらによいものにする」有朋会職員はこういった意識を常に持ち続け、日々切磋琢磨し、さらなる成長を目指していきます。

診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 午前 8:00 ~ 11:30 / 午後 11:31 ~ 15:00
診察時間 午前 9:00 開始 / 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	疋田	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第2週 鈴木 第3,5週 吉川
	3 診		袖山	木滝	木滝	疋田	高橋
	5 診					井出	田口
午 後	1 診	栗田					休診
	2 診		高山			第2,4週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	5 診						

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*精神科外来は完全予約制になります。

*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

■=内科

関連施設

地域生活支援事業部

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL&FAX.029-295-1834

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第一くりの木」「第二くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652

「くりくり」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

認知症デイサービス

「クリクリ瓜連」 〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ住吉」 〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750

認知症疾患事業部

アクセスマップ

